

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

vivo

3 MARCH 2005

CONTENTS

ATMアンサンブル第20回演奏会	1
ピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタル ...	2
室内オペラ「ふたつの電話」	3
合唱セミナー 2005	4
SELF PORTRAIT / 水戸ゾリステン、 長須与佳、永木早知	4、5
最近の公演から	6
ネットマ&Petite 情報	7
インフォメーション	8



写真上;ATMアンサンブル

下;ピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタル

ATMアンサンブルがお届けする、春の室内楽の宴。 3 / 26(土)ATMアンサンブル第20回演奏会

今回で20回目の演奏会を迎えるATMアンサンブル。20回目の記念プログラムとして皆様にお届けするのは、数ある室内楽の名曲の中でも人気の高い3曲です。ハイドンの弦楽四重奏曲 ひばり、シューマンのピアノ五重奏曲、そしてブラームスの弦楽六重奏曲第2番 アガーテ。このところATMアンサンブルは、特定の作曲家の音楽に迫る重厚な演奏会を続けてきたので、ちょっとひと息、今回のような名曲中の名曲プログラムをお楽しみいただくというわけです。もちろん、3曲とも聴き応え十分の傑作であることは言うまでもありません。

さて、ATMアンサンブルや水戸カルテットの演奏会を長く楽しまれてきた方なら、今回演奏される曲目を、懐かしく思われる方もいらっしゃるでしょう。どうぞ、記憶のアルバムのページをめくってください。まずブラームスの弦楽六重奏曲第2番ですが、これは1993年2月14日(月)に行われたATMアンサンブル第8回演奏会で取り上げられています。このときの演奏会は「聖ヴァレンタイン・デーの夜に」と題し、ドヴォルジャーク：糸杉 およびシューマン：ピアノ三重奏曲第1番(ピアノ：伊藤 恵)と組み合わせた「愛」の名曲によるプログラムでした。ブラームスの弦楽六重奏曲第2番はアガーテ という呼び名が示すとおり、恋愛関係に陥り結婚寸前までいったものの彼自身で関係を終わらせてしまった女性、アガーテ・フォン・ジー

ボルトの思い出が詰まった作品です。彼女の名前のアルファベットを音名に直したモチーフをちりばめるなど、失われた愛のほろ苦い余韻が曲にただよっています。とはいえそこはブラームス、感傷に溺れることなく堂々たる交響楽的大作に仕上げているのですが、この曲の第一ヴァイオリンは加藤知子が務め、原田幸一郎は第一ヴィオラにまわります。また残念ながら今回お休みの豊嶋泰嗣に代わって、水戸室内管弦楽団にゲストで登場し、現在NHK交響楽団の団員として活躍中のヴィオリスト、佐々木亮が登場します。

つづいて、シューマンのピアノ五重奏曲。この曲が取り上げられたのはなんと開館の年に行われた水戸カルテットの第1回演奏会[1990年4月15日(日)]に遡ります。モーツァルト：弦楽四重奏曲 二短調 K.421、ベルク：抒情組曲 との組み合わせでした。このときには野島 稔がピアノを弾きましたが、今回登場するのはその年(1990年)の第12回ショパン国際ピアノコンクールで最優秀演奏賞を受賞したばかりの新鋭だった、田部京子です。田部京子のその後の活躍は強調するまでもありません。デンオンから数多くのCDを発表し、特にシューベルトは高い評価を受けました。またイギリスの気鋭のレーベル、シャンドスからもラヴ・コールを受けて何枚も録音を行っています。派手な技巧を見せつけるよりも、清冽さと詩情で聴くものの心をとらえる田部京子のピアノニズムは、

情熱的なシューマンのピアノ五重奏曲からどんな新しい魅力を引き出してくれるでしょうか。共演は、ヴィオラが豊嶋泰嗣から佐々木亮に代わった形の「水戸カルテット」です。

さて最後にハイドンの ひばり。ハイドンの弦楽四重奏曲の中でも特に有名なこの作品がATMアンサンブルもしくは水戸カルテットの演奏会に登場するのは...なんと初めて! ハイドンの四重奏はかなり取り上げられているだけにこれは意外、いやあ驚きました。小林美恵が水戸ではじめて弦楽四重奏曲のトップを務めるという点と併せて、はじめてづくしの曲となりました。この演奏会、過去に取り上げられた名曲を現在のATMアンサンブルが円熟した演奏でお聴かせするという、いわば「裏テーマ」があったのですが、知らず知らずのうちに新しいチャレンジ、未来をも含んでいたのですね。

というわけでATMアンサンブルの過去・現在・未来が詰まったこの演奏会。後述のピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタルと共に、春の室内楽の宴を満喫していただければと思います。ワイン・サービスもごさいますよ! また、3月27日(日)には、碧南市芸術文化ホールにて同プログラムによる館外公演が行われます。お問い合わせは同ホール(Tel.0566-48-3731)まで。

《矢澤》



写真左から;
ピーター・ウィスベルウェイ、
デヤン・ラツィック

気鋭のチェロ奏者、ウィスベルウェイがお届けする「室内楽の宴」は、ドイツ音楽三昧！ 3 / 19 (土)ピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタル

群雄割拠のチェロ奏者たち

カザルスにはじまり、シュタルケル、トゥルトリエ、フルニエ、デュ・プレ、ロストロポーヴィチ、堤剛、ヨーヨー・マ、マイスキー、ピルスマ・・・と綿々と続く偉大なチェロ奏者たち。しかし、スター性のある大物といったらこのあたりで止まってしまうのでしょうか？

否、21世紀の初頭、チェロ界はむしろ群雄割拠の時代に入っていると申せましょう。前述のうち何人かはバリバリ現役で演奏活動を行っているのに加え、それに続く実力派奏者たちが次々に名乗りを上げているのです。ピーター・ウィスベルウェイ、マリオ・ブルネロ、ジャン＝ギアン・ケラス、アレクサンドル・クニャーゼフ・・・。みな並外れた技巧の持ち主というだけでなく、音楽性という点でそれぞれに独自の良さを持っており、チェロを愛する聴き手にとっては贅沢な時代に突入したといえるでしょう。

新世代のチェロ奏者、ウィスベルウェイ

このたび水戸芸術館に初登場するピーター・ウィスベルウェイ。世界を股にかけてのリサイタル活動や相次ぐCDリリースで独創的な演奏を聴かせ、批評家からの評価も高いチェリストですが、一般の音楽ファンには今ひとつ正体がつかみにくい演奏家かも知れません。古楽器も現代楽器も自在に操るこのスーパー・チェリストは、いったいどこに自分本来の居場所を定めているのでしょうか。

1962年オランダのハーレムに生まれたウィスベルウェイは、学生時代、バロック・チェロの第一人者、アンナー・ピルスマの教えを受け、古楽の世界への眼が開かれました。18世紀から19世紀にかけての音楽を演奏する際のウィスベルウェイの考え方はこうです。「正しい環境が整ったときには、金属弦よりもガット弦(羊の腸で作った弦)のほうがよく響く」。

なるほど、ウィスベルウェイが、CD録音において、バッハ 無伴奏チェロ組曲、ベートーヴェン チェロ・ソナタ全集 は言うに及ばず、ブラームス やレーガーに到るロマン派の作品でも、ガット弦の古楽器を使用しているのは理解できます。

一方、ウィスベルウェイの言う「正しい環境」は、実際の演奏会場では、なかなか整えられるもので

もありません。状態の良いフォルテピアノがあるかどうか、ホールのサイズや残響は適正か、楽器の求める温度や湿度は保たれるか、といった問題に加え、一夜のプログラムで様々な時代の作品を取り上げる場合、それぞれの時代に対応したチェロと鍵盤楽器を用意し、且つきちんと調整することはほとんど絶望的です。

ウィスベルウェイはこうした時、あっさり金属弦の現代楽器をチョイスします。今回の水戸芸術館でのリサイタルもそうです。

では、同じバッハ 無伴奏チェロ組曲第1番をCD(古楽器を使用)と、3年前の来日時の実演(現代楽器を使用)とで聴き比べたら・・・。楽器の違いは明白で、サウンドは大きく異なります(端的に言えば古楽器はくすんだ響きとやわらかなニュアンスを、現代楽器は力強い音と明快な表現力を持つ)。しかし、驚くほど音楽そのものから受ける印象は変わりません。楽器を変えても、作品全体を貫くイメージや、各楽章のテンポの対比、アーティキュレーションが保たれているからでしょう。どちらを聴いても、「ウィスベルウェイが弾くバッハ」に接した充実感が心を満たすのです。

ウィスベルウェイにとって、楽器は大変重要であるものの、あくまで音楽を伝えるための手段に過ぎないのかも知れません。言い換えれば、音楽を伝えるための最善の方法を、その場その場に応じて柔軟に選択することが出来るのが、ウィスベルウェイというチェロ奏者の最大の特質と言えます。演奏する場こそが、彼本来の居場所なのです。

名曲揃いのプログラム

今回の日本ツアーにあたり、ウィスベルウェイから提案されたプログラムは、オール・バッハ もしくは オール・ブラームス、というものでした。水戸での初リサイタルにあたり、ウィスベルウェイの多彩な魅力をお客様に楽しんでいただきたいの思いから、両方の美味しい所取りで 無伴奏チェロ組曲 のいずれか1曲とブラームスのチェロ・ソナタ 第1番、加えてせっかくなら厚重なドイツ・プログラムにしたいとの思いで、間にベートーヴェンのチェロ・ソナタ 第3番 を入れるプログラムを逆にごちらから提案。すると、ウィスベルウェイは快く同意してくれ、ドイツの3巨匠による名曲プ

ログラムが実現しました(もちろん、今回のツアーでベートーヴェンの 第3番 が聴けるのは水戸芸術館のみです)。

バッハ:無伴奏チェロ組曲 第2番 二短調 BWV1008

全6曲あるバッハ 無伴奏チェロ組曲 の中でも、その荘重な足取りと深い精神性が印象的な第2番。ウィスベルウェイは「激情も存在するが、それを封印している鍵が開かれなければならない。喜びを求める感情が無いわけではないが、それを知らせる予言は無いのである。悲しみと気高さの若々しいブレンド」と語っています。

ベートーヴェン:ソナタ 第3番 イ長調 作品69

5曲あるベートーヴェンのチェロ・ソナタのうち、第3番 は唯一中期に属する曲で、交響曲 運命 やピアノ協奏曲 皇帝 といった傑作群と同時期に作曲されました。ウィスベルウェイによって「牧歌」と評されるこの曲は、ベートーヴェンとしてはめずらしく肩の力を抜き、リラックスして作曲した様子うかがえます。

ブラームス:ソナタ 第1番 小短調 作品38

ブラームスのチェロ・ソナタは全2曲。明るく情熱的な力に満ちた 第2番 とは対照的に、全3楽章がすべて短調で書かれた 第1番 は、陰影の濃い悲しみとメランコリックな感傷が支配的です。チェロ・パートはほとんどの間ピアノよりも低い音域にとどまり、地底から響くような深い嘆きの歌を綴っていきます。

ウィスベルウェイの演奏が新たな地平を拓く

ある意味、名手たちによってすでに演奏し尽くされた感のあるこれら名曲に、ウィスベルウェイはどのように挑むのでしょうか。ウィスベルウェイは、綿密な作品研究と超絶的なテクニックをベースとしながら、その上で、天才的な靈感に導かれ、様式の枠を超えて自由に飛翔することをためらいません。バッハでも、ベートーヴェンでも、ブラームスでも、ウィスベルウェイの手にかかると、譜面に刻まれた音符たちは、有機体となって生き生きと呼吸しだすのです。ピアノの若き俊英デヤン・ラツィックの力強いサポートを得て、新鮮な驚きとともに、これら名曲の演奏史に新たな地平を拓いてくれることでしょう。どうぞお楽しみに。 《関根》

写真左から；
若杉 弘、栗山昌良、
釜洞祐子、高橋薫子、
立花敏弘、谷池重紬子



電話のベルが、愛の物語の開幕を告げる。2つの名作オペラを味わいつくす宵。 3 / 12(土)室内オペラ「ふたつの電話」

ふたつの電話、ふたつのオペラ

ダイヤル式の黒電話、プッシュホン、ポケット・ベル、携帯電話、テレビ電話...ほんの数十年の間に、電話というメディアは飛躍的な進歩をつづけています。けれども、どれほど進化しても、「その場にはいない誰かと話をする」という行為そのものの基本に変わりはありません。目の前にいない相手との会話を可能にした、電話というものの発明。それは、人と人とのコミュニケーションのあり方に、大きな変化を及ぼしたことでしょう。出向いたり手紙を書いたりしなくても仕事相手と相談ができる利便性はもちろん、たとえば愛し合うもの同士で行われるパーソナルな会話のあり方にも、それは影響を与えたとはいえません。

若杉 弘企画運営委員が昨年の『喜歌劇 奥様女中』に続いてお届けする室内オペラ企画『ふたつの電話』は、電話という20世紀のコミュニケーション・ツールから生まれた2つの愛の名作オペラを組み合わせる、独創的、かつ大いに楽しめる一夜です。組み合わせられた作品は、プーランクの声 とメソッティの 電話 。それぞれの作品についてふれる前に、まずはそれぞれの作曲家の横顔にスポットライトを当ててみましょう。

音楽で電話を鳴らしたふたり

フランスの作曲家、フランシス・プーランク (1899 ~ 1963) の名を聴いてすぐに音楽が浮かんでこなくても、水戸芸術館の人気企画 ぞうのババール の作曲家といえはすぐに「ああ、あれね」と思い出されるでしょう。優しさや機知、ユーモアにあふれた ぞうのババール の音楽はほんとうに魅力的なものです。あの音楽が1940年から45年という時期に生まれたというのもちょっと驚きです。第二次大戦中の暗い時期にあの作品が書かれたということももちろんありますが、それ以上に、12音技法が登場してすでに20年近くが経過し、フランスではメシアン初期の前衛的な傑作が生まれ出されていた時代に、子供のためとはいえ、あれほど平明で、そのくせルーティンさを少しも感じさせない新鮮な音楽を書いていたとは。

もちろん ぞうのババール のみならず、それ以外のプーランクの作品も、ヴァラエティ豊かで魅力的な逸品ぞろいです。「私は和声の革新を行った作曲家ではないけれども、ほかの人の和声を使う

ことを気にしないで新しい音楽を書く余地はあると思う」という作曲家の言葉が示すとおり、プーランクの作品は20世紀の音楽であるにもかかわらず、決して調性から離れることはありません。しかし、その旋律や和声は常に創意や新鮮さにあふれ、古めかしい感じとは無縁です。20世紀のモーツァルト、あるいはシューベルトという言葉が、これほどふさわしい作曲家もいないでしょう。

さてそのプーランクの音楽ですが、「悪童と修道僧が同居している」とはよく言われるところです。特に若い頃、サティを囲む血気盛んな若手作曲家たちのサークル「6人組」の一人として暴れまわっていた頃のシュールな作品は「悪童」の面目躍如です。その性格は後年のピアノ曲や愉快なオペラ ティレシアスの乳房 にも顔を出します。一方、1935年にローマ・カトリックに帰依してからは、黒い聖母へのリタニ スターバト・マーテル グローリア など厳肅で荘厳な宗教曲を書き、カルメル派修道女の対話 という恐ろしくシリアスなオペラを書いています。さらに、戦時中に書かれた感動的な合唱曲 人間の顔 やヴァイオリン・ソナタなど、宗教的な作品以外のものにも、この作曲家のヒューマニズムが祈りとなって投影されています。ひとりの女性の愛と絶望を描ききったオペラ 声 も、この系譜に連なるものだといえるでしょう。この作品は台本が偉大な詩人・小説家・劇作家・映画監督のジャン・コクトー。名歌手ドニーズ・デュヴァルを主演に立てた初演は、圧倒的なまでの大成功であったといえます。

一方イタリア生まれのアメリカの作曲家、ジャン・カルロ・メソッティ (1911 ~) も、どこかプーランクと似たところがあると言えるかもしれません。アヴァン・ギャルドな潮流とは無縁ながら、既存の技法を縦横に使いこなし、現代的な題材を巧みに用いたヒット作オペラを次々と連発しました。NBC放送の委嘱で書かれたラジオ・オペラ アマールと夜の訪問者 は、かつて芸術館の市民オペラでもとりあげられたので、その親しみやすい旋律と叙情性をご記憶の方も多いでしょう。軽妙な作品とシリアスな作品がまるでバランスをとるように両立しているのも、プーランクと似たところがあります。前者の代表は夫を殴り倒してまで舞踏会に行く若妻の物語 アメリア舞踏会へ行く、泥棒と恋

してしまった不幸な女性の悲喜劇 泥棒とオールドミス など。一方後者はサイコ・サスペンス 霊媒 や社会派の悲劇 領事 などに代表されるでしょう。今回の 電話 (1947年初演)とはいえば、まぎれもなく前者の系列の作品、ということになります。

声 と 電話 は、どちらも電話という20世紀のメディアによって、翻弄される恋人たちを描いた物語です。しかし一方は痛切な悲劇、もうひとつは軽妙な喜劇として、好一對をなしています。声の主人公の女性は、去り行くかつての恋人に電話をかけ、なんとか愛をつなぎとめようと空しく努力しますが、混線に悩まされ(これは当時のフランスの電話事情を反映しているのだそうです)、男と話していても「いつ切られるか」という恐怖と闘わなくてはなりません。一方 電話 の主人公の男性は、恋人を目の前にプロポーズしようと決意を固めているのですが、次々とかかってくる電話に邪魔されてイライラします。彼のとる最終手段が実に気が利いているのですが、それはここで言わぬが花でしょう。

電話に命をふきこむ人々

この2作の上演にあたり、若杉 弘は考えられる最高のキャストを選びました。声 のヒロインには、いまや最高の円熟期を迎えつつある日本を代表するソプラノ、釜洞祐子(水戸芸術館には初登場)。電話 のカップルには、多彩な分野で活躍を続けるバリトン、立花敏弘と、昨年の 奥様女中 でのコミカルな名演の記憶も新しいソプラノの高橋薫子。実生活でもご夫婦であるおふたりの阿吽の呼吸に期待しましょう。さらにピアノは、『オペラの花束をあなたへ』シリーズでオーケストラ顔負けの華麗なピアノを聴かせてくれる谷池重紬子。そして演出が日本のオペラ演出の巨匠、栗山昌良なので、ちょっと信じられないような一夜です。『奥様女中』でも大好評だった、若杉 弘のわかりやすく面白いプレトークもご期待ください。さあ、この記事を読まれたら、さっそくお近くの電話(ケイタイでも結構です)でお友達を誘い、引き続き水戸芸術館チケット予約センターの番号をプッシュしてください! その電話はあなたを翻弄することなく、ドラマティックな一夜へ導いてくれることでしょう! 《矢澤》



写真左から：
栗山文昭、
兼氏規雄(水戸ソリスト代表)

栗山文昭氏の指導で、三善晃編曲 唱歌の四季 を学び、歌う。 3 / 6(日)合唱セミナー 2005 講師：栗山文昭

茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催により毎年実施している「合唱セミナー」。畑中良輔氏、池辺晋一郎氏、新実徳英氏など日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習します。どこかの団体に所属してなくても、合唱を愛する方ならばどなたでも参加できるセミナーですので、ぜひ会場にいらしてください。

あの栗山文昭氏が講師に

さて、今回の講師は栗山文昭氏です。ご存知のとおり、日本トップクラスの合唱指揮者ですから、早くから当セミナーの講師として候補に挙がっていましたが、ご多忙のためなかなかスケジュールが合いませんでした。今回、待望の初登場となります。

栗山文昭氏といえば、精力的かつ多彩な指揮活動で有名です。宇都宮室内合唱団ジガメル、合唱団響、女声合唱団青い鳥、合唱団のふらん、

Tokyo male choir KuuKaiなど、14もの団体からなる「栗友会」の音楽監督兼指揮者を務め、そのいずれをも日本を代表する第一級の合唱団に育て上げています。

氏の指揮活動で特筆すべきは、既存の合唱曲の演奏とともに、委嘱作品の初演やこれまでにない価値観の発見にも大きな力を注いでいることです。池辺晋一郎や林光といった作曲家へのシアターピース的な作品の委嘱、三宅榛名や塩見允枝子といった合唱とはほとんど縁のなかった音楽家との協働などは、合唱音楽の未来を見据える視点から生み出されたユニークな仕事といえるでしょう。

栗山文昭氏はこれまでに2回、水戸芸術館に登場しています。1回目は1997年10月の「現代音楽を楽しもうXIII 西潟昭子(三絃)」(企画:池辺晋一郎)、女声合唱団のふらんを率い、西潟昭子、溝入敬三(コントラバス)との共演で、新実徳英をとこ、をんなを演奏しました。2回目は2000

年7月の「日本の歌・この100年 詩人たちの歌 独唱に、合唱に」(企画:池辺晋一郎)。この時は合唱団OMP(現、合唱団響)を率い、合唱のために編曲された江戸時代の俗謡や、柴田南雄、西村朗、林光ら邦人合唱曲の名作を演奏しました。アマチュアの団体とは信じがたい高度な演奏水準に驚いた記憶は、今でも鮮明に残っています。

課題曲は 唱歌の四季

課題曲は、三善晃編曲による 唱歌の四季 です。朧月夜 茶摘 紅葉 雪 というおなじみの、春夏秋冬にちなんだ唱歌4曲に 夕焼小焼を加え、全5曲からなっています。三善晃ならではの近代フランス音楽的色彩の漂う和声や転調が、これらの唱歌を見事に現代に蘇らせています。

栗山文昭氏による半日かけたセミナーで、この曲への理解を深め、同時に皆さんで声を合わせて歌い、表現の方法も身につけます。皆さん、ふるってご参加ください。 《関根》

SELF

モーツァルト・ハルモニウムジークへの誘い

～水戸市在住のクラリネット奏者・兼氏規雄が代表を務めるアンサンブル「水戸ソリスト」が、管楽合奏の魅力を披露～

3 / 5(土) 水戸ソリスト 室内アンサンブル 第4回定期演奏会

水戸ソリストの定期演奏会も今回で4回目を迎え、これまでもモーツァルトやベートーヴェンのような古典期の名曲から、メシアンの 世の終わりのための四重奏曲 や20世紀作曲家の日本初演など、幅広く積極的に演奏会に取り上げてきました。今回はモーツァルトプログラムでハルモニウムジークを取り上げます。

モーツァルトの時代、最大の娯楽といえばオペラでした。新作のオペラがヒットすると、ちょうど今日のオーディオでCDやDVDを再生するように、自邸でも流行歌を楽しみたいという欲求に応え、そのハイライトをピアノや室内楽に編曲した楽譜が数多く出版されました。ウィーンでは、その中でも最も規模の大きいものがハルモニウムジークと呼ばれ、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン各2本による八重奏が基本でした。オペラの内容や構成を簡略化し、単純に楽器だけで演奏されるハルモニウムジークは、オペラというジャンルの枠を超え、非常に多くの人に親しまれていました。

録音や放送のなかった当時、王侯貴族や裕福な市民など身分の高い人々は、流行から乗り遅れないようにと専属の管楽合奏団を所有し、避暑や避暑でウィーンを離れる際でも常に連れ歩いていました。また、宮廷や貴族の祝宴ではハルモニ-

PORTRAIT

ムジークが特に喜ばれ、日常生活においても、邸内や離宮での食事や娯楽の時間に、BGMとしてハルモニウムジークを演奏させて楽しんでいました。また、ホテルやレストラン、酒場なども、この8人による小オーケストラを競って手元に置くようになったため、一般庶民でも最新の流行歌を存分に楽しむことができました。

今回取り上げる フィガロの結婚 と ドン・ジョヴァンニ は、魔笛 と共にモーツァルトの三大傑作オペラといわれています。編曲者は、両曲ともモーツァルトと同時代に活躍したウィーン宮廷楽団のオーボエ奏者で、売れっ子アレンジャーでもありました。その内容は、ソプラノをオーボエやクラリネット、バリトンやバスをファゴットやホルンに置き換えるといった単純なものではなく、楽器を巧みに組み合わせたり、入れ替えたりすることにより、ハルモニウムジークとして十分満足できる作品に仕上がっています。編曲でよくある「歌のないオペラ、歌詞のないオペラ」といった不満が感じられないのは、ひとえにハルモニウムジークの多様な可能性と、モーツァルトのオペラを熟知する編曲者の見事な手腕によるところが大きいといえるでしょう。どうぞ、18世紀版DVD?を是非お楽しみください。

兼氏規雄(水戸ソリスト代表)



写真左から;
長須与佳、永木早知

邦楽ユニット“Rin'”のメンバーとして、いまや全国で大活躍中!
長須与佳が、新しい邦楽の魅力をお届けします。

3 / 13(日)

ながすともか
長須与佳

琵琶・尺八コンサート
～「平家物語」の女性を奏でる～

琵琶・尺八と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか?「耳なし芳一」又は「虚無僧」でしょうか。出会う前に先入観があったならば、私はこの楽器を続けていなかったかもしれません。

この2つの楽器に出会ったのは10歳の時。サラリーマン家庭に生まれ、私の周りには幼稚園の時に泣いて頼んだピアノと、母のエレクトーンが部屋の片隅に置いてあり、琵琶・尺八という存在はカケラもありませんでした。

そんなある日、母が突然尺八を始め、母の稽古と一緒にいていった時に尺八を吹いてみたら、すぐに音が出ないという尺八の音が出てしまったり、その数ヶ月後には祖父の家から琵琶が発見されたりと、一瞬にして我が家は邦楽が身近にある家となり、運命の道がくっきりと姿を現したかの様でした。

母のお腹の中ではビートルズやエルトン・ジョン、中学校では吹奏楽部で毎日ホルンを吹きクラシックを聴く日々。日常に、必ず音楽がある生活をしていた私には、琵琶・尺八といった楽器が特別なモノとは思わなかったのです。

そんな時、私の胸に深く突き刺さった言葉がありました。同世代の子に言われた「古くさい」という言葉。私がやっている楽器はそんなに变なのか、責められる様な楽器なのかと。

私達の住む日本には、こんなに素敵な形・音がする楽器があるのに、悲しい事にあまり知られていません。「普段着で、身近に聴いてもらえる様な音楽を作りたい。」この思いは大学を卒業してからも消える事なく、どうにかしたいという思いから、年に一度コンサートを開く事を決意したのです。

3回目となる今回は、3月13日にコンサートホールATM水戸芸術館にて「長須与佳 琵琶尺八コンサート～平家物語の女性を奏でる～」を行います。平家物語といえば、数々の男性がクローズアップされている中、敢えて女性に注目してみました。今回初演となる私が作曲しました「巴～Tomoe～」は、この物語の中でも私が大好きな女性の一人です。愛する人の右腕となり、最後にみせる勇ましさは何度読んでも圧倒されます。この曲は、子供たちにもわかる様に文語を交えつつ現代の言葉で構成しています。

その他に、故郷を思っ書いたキーボードと尺八の曲や二十五絃箏と琵琶の曲など、珍しい組み合わせを企画しておりますので、是非ご覧下さい。私のステージには、金屏風も毛氈もありません。古典も昔は現代曲だったと言う様に、21世紀に生きる一人として、このコンサートを通し今の音楽を次世代に伝えていけたらと思っています。

長須与佳

純粹さ・ユーモア・深淵 プロコフィエフの世界へ、水戸市出身のピアニスト永木早知がお連れします。

3 / 20(日)

プロコフィエフの世界
～ピアノとヴァイオリンによるコンサート

プロコフィエフのオペラやバレエをみると、その音楽の劇場的な面白さ、視覚的な興行きや動き、色の感じなどに惹きこまれる。たとえばオペラ 三つのオレンジへの恋 は、笑わない病気の王子が冒険を通して成長していく喜劇だが、観ているほうは終始腹がよじれるほど笑わせられる。鮮やかな色と聴いたこともない音がめくるめく飛び交い、例えば「医者」や「魔女」への皮肉を込めた性格付けには、度肝をぬかれつつも笑わずにいられない。このオペラが、新しい共産ソヴィエトを出てアメリカへ着いたばかりの28歳のプロコフィエフによるという事実には、彼の天才と、それまでの実績との裏づけがある。

彼は「最初のオペラ」を11歳のときに書いたのである。と言っても、両親とモスクワで観たオペラに興奮して自分も作ると言い出し、巨人を倒す主人公に自分になり、友人らとピアノの伴奏で叔父の家で上演した、子供らしいものであったが、その後13歳でペテルブルグ音楽院に入るまでに、さらに3つのオペラを試みている。このことは、子供のころから劇的な内容を音楽で表す面白さに遊びのように熱中した彼にとって、後の作曲も同じ熱中の続きであったことを物語っているようである。プロコフィエフは、この世の面白さを発見する子

供の心を、弾圧に苦しめられた晩年までついに失わなかった。

ピアノ曲でも、この劇場的な特性や純心さ、笑いなどが面白いのだが、強烈な 戦争 ソナタ第7番の、破滅への突進の様なイメージで、いまだに彼のピアノ作品がくられがちなのを残念に思っていた。清明さ、叙情性、アイロニーなど、変化に富むピアノ小品は120曲にも及ぶ。名前はよく知られている つかの間の幻影 も通して演奏されることは実にまれだが、この20代半ばの作品に彼の後の音楽の芽が全て含まれている。不思議なのは、後年時代と当局から受けることになる運命を知るはずのなかった、上昇気運の天才児の彼が、深い悲劇性と、それを受けとめる透徹した眼差しをすでに持っていたことである。このことはモーツァルトを思い出させる。悲劇を生きること、そこから美を生み出すことが、はじめから彼らの天才の宿命だったのだろうか。この つかの間の幻影 から始めるコンサートを、作品を通して、人間の深淵にかかわる疑問と、それを吹き飛ばす笑いを共に味わい、思い巡らせる時間にできたらと願いつつ、皆様のご来訪をお待ちしております。

永木早知

最近の公演から
DECEMBER



1



2



3



4



5



6



7



8

水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会
(12月3日、4日、5日)

水戸室内管弦楽団新潟演奏会(12月6日)

音楽顧問の小澤征爾が指揮した水戸室内管弦楽団(以下MCO)第60回定期演奏会は、MCOの歴史においてとりわけ意義深いものとなりました。まず、12月4日(土)には7月に続いて2度目となる「子供のための音楽会」を茨城県武道館にて実施。市内の小学校28校、中学校6校(吹奏楽部員)、今年2月に合併する内原町の小中学校3校、盲学校、水戸養護学校から集まった児童・生徒は約2,200人。皆さん、マエストロのタクトから導かれる魔法のような音楽に魅了され、メンバーの中村静香のユーモアを交えた楽しい司会による楽器紹介に目を輝かせていました。最後には全員で、茨城県を代表する抒情詩人・野口雨情の詩による童謡「七つの子」(作曲:本居長世)を合唱。MCOと「共演」した満足感を顔に浮かべながら、子供たちは家路につきました

また、12月6日(月)の新潟公演の際には、マエストロをはじめとするメンバーの総意により、演奏会に先立ち、新潟県中越地震の被災地長岡市の旭岡中学校で中学生およびその父兄、近在の被災者の方々に慰問するコンサートが行われました。アンコールでバッハの「アリア」を演奏したマエストロ小澤は、「神様にお祈りするつもりで、皆さんの苦勞や亡くなった人のことを思い浮かべてやった。必ず復興すると信じています」と話しました。

こうした数々のイベントを支えたのが、円熟したMCOの演奏であることは言うまでもありません。演奏会の幕開けを告げる「イダメネオ」序曲、川崎洋介と店村眞積という若手とヴェテランの真摯な音楽的対話が感銘を呼んだ「協奏交響曲」、そして熱気あふれるクライマックスを築き上げた「リンツ」。3曲のモーツァルト作品が、水戸も新潟も、耳にする人すべてを至福の響きで包みました。《矢澤》アンケートから「小澤さんの生の声が聴こえた気がしました。夢のようなひと時でした。(水戸市:S.T.さん)」このオーケストラはまったくモーツァルトに適している。モーツァルト三昧で幸せでした(下館市:M.O.さん)「協奏交響曲の川崎さんと店村さんの息の合ったアンサンブルがとてもすばしかったです(ひたちなか市:Y.K.さん)」オーケストラ初体験でしたが、本当に素晴らしい体験を聴かせていただき、本当に、本当にありがとうございました(新治郡:M.K.さん)

アートタワーみとスターライトファンタジー
第9回 クリスマス・コンサート

(12月11日、12日)

子どもたちに夢を与えようという思いとともに、実行委員会の方々が募金活動を行ない毎年実現しているのが、水戸芸術館や水戸駅をライトアップするアートタワーみとスターライトファンタジー。

同イベントの一環として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート[市内小中学校芸術館コンサート]」を開催しました。今年はACM劇場で2日間にわたり実施。吹奏楽、金管合奏、合唱、ハンドベルなど20校の24団体、800名を超える生徒さんが参加しました。さらに茨城交響楽団のメンバーによる弦楽合奏団や同交響楽団の管楽器アンサンブル「クローデル・クインテット」が特別出演していただきました。《中村》

水戸の街に響け! 300人の《第九》

(12月19日)

「もう一度歌いたい」「毎年開催して欲しい」といった多くの声を受け、2003年より復活した《第九》(茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟、水戸市音楽団体連盟との共催)。今年も良い天気に恵まれ、12時からと13時半からの2回の公演を無事終えた。一般公募の参加者を多数含む394人もの大編成となった合唱団は、指揮者・鈴木木朝氏を中心とした先生方による長期間にわたる練習の成果を見事に発揮、「抱き合え、幾百万の人びとよ! この接吻を全世界に!」(シラーの詩)のメッセージを高らかに響かせた。独唱者(結城滋子、小林由佳、小貫岩夫、清水良一) エレクトーン(小林由佳、武元彩子) ピアノ(中村真由美、中村佳代)、ティンパニ(尾花章子)の熱演が合唱を力強く支えるとともに、演奏に美しい彩を添えた。演奏後には、のべ2200人の観客の皆様と一緒に「よろこびのうた」を歌い、平和と人類愛への祈りを込めた。(本公演は今年も開催します。詳細については後ほど本紙にてお知らせします。)(関根)

クリスマス・プレゼント・コンサート2004

(12月23日)

茨城ゆかりの優れた演奏家の方たちにもご出演いただいているのも、本コンサートの大きな特色のひとつ。ソプラノの小泉恵子さんは、モーツァルトの「きらきら星変奏曲」の声楽版などを披露。中村佳代さんはメシアンのパiano作品を、若手ヴァイオリン奏者の加藤直子さんはクライスラー作品を、ピアノの山口泉恵さんは、奥村一の何曲「日本民謡ピアノ曲集」より2曲を演奏しました。さらにテノールの藤川泰彰さんが出演しました。演奏会の最後を飾ったのは、名門水戸第二高等学校コーラス部によるプリテンの「キャロルの祭典」。合唱指揮の北村協一さんに7回も水戸に足を運んでいただき入念に行なわれたリハーサルの成果が見事に発揮されました。このコンサートの企画・進行役はお馴染みの畑中良輔氏。《中村》アンケートから「いつものコンサートホールが聖堂のようで、聖なるものに触れるような気がしました。二高のコーラス、とても清楚でした。(水戸市:S.E.さん)」「聖夜」をテーマに統一した構成が光っていた(M.W.さん)とてもきれいで心にのこった。(水戸市:9歳の方)

1~2.水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会 3.水戸室内管弦楽団子供のための音楽会 4.スターライト・クリスマス・コンサート
5~6.水戸の街に響け! 300人の《第九》 7~8.クリスマス・プレゼント・コンサート2004



* nettama=ネットワークする猫、タマ。
芸術館のコンサートをサカナに
いるんなどころへnettamaします。

LOVE&PEACE余録

2005年の水戸芸術館ニュー・イヤー・コンサートは、1月5日、満員御礼の盛況のうちに行われた。LOVE&PEACEをテーマにしたコンサートの模様は次号のvivoでお伝えするとして、ここではこのコンサートで行われた 大吉リクエストの結果についてお伝えしておきたい。何しろ今だから明かすがこの僕、タマが選考にひと役かっていたものでね。

昨年のニュー・イヤー・コンサートから始まったこの 大吉リクエスト は、特定のテーマに基づいて皆さんの聴きたい曲をリクエストしていただき、その中から人気の高かったものをチョイスしてコンサートの選曲に取り入れる、というものだ。今回のテーマはもちろん、「あなたがLOVE&PEACEを感じるこの一曲」。リクエストで人気を集め、実際のコンサートで演奏されたのは以下の3曲。バッハ 管弦楽組曲第3番 八長調 からエア(編曲されて G線上のアリア の名でも親しまれている)。バッハ原曲、グノー編曲による アヴェ・マリア、そして、ラフマニノフ ヴォカリーズ。

ただしこれ以外にも人気を集めつつも演奏会で取り上げられなかった曲がいくつかあるので、ここでご紹介しておこう。まずモーツァルト:ピアノ協奏曲 第21番 八長調 K467から第2楽章アンダンテ。映画に使われるなど、モーツァルトのピアノ協奏曲の中でも特に人気の高い曲だ。静かな悲しみの感情に満たされたこの楽章は実に美しいものだけれど、残念ながら、今回の出演者数の範囲で演奏できるもの、という条件を超えていた。それから、やっぱり多かったのはジョン・レノン イマジン。ジョン・レノンはLOVE&PEACEという言葉からもっとも連想しやすいアーティストかもしれない。もちろんレノン本人を連れてくるわけにはいかないので当然カバー・ヴァージョンとなるがこれは変化球を投げさせていただき、現代アメリカの作曲家ジェフスキ

が高橋アキさんのために同じレノンの 平和を我等に を大胆にリ・アレンジしたものを取り上げた。あと、SMAPの 世界でひとつだけの花 のリクエストもかなりあったけれど、これはふさわしいアレンジがなかったので見送らせていただいた。

以下、一票だけ得票があったものを挙げさせていただく(順不同)。どんな曲から皆さんLOVE&PEACEを感じられたのか、ご覧ください。アメージング・グレース / 風になりたい(The Boom) / ワールド・カップの入場行進曲 / ある愛の物語 / Sleep John B(ウルフルズ) / 言葉にできない(小田和正) / ヨハン・シュトラウス2世: こうもり 序曲 / サラサーテ: ツイゴイネルワイゼン / 芸術館、利用した者(芸術館を利用した方はみんなLOVE&PEACEに満たされる、というエールの意味でいいのかな?) / チャップリン: スマイル / She's a rainbow(ローリング・ストーンズ) / モーツァルト: アヴェ・ヴェルム・コルプス / チャイコフスキー: 組曲 第4番 ト長調 作品61 モーツァルト: ティアーナ から 第4楽章 / オルフ: カルミナ・ブラーナ から イン・トゥルティアーノ / イギリス古謡: グリーンズリーヴス / ドニゼッティ: 歌劇 ルチア から 狂乱の場 / ホルスト: 組曲 惑星 から 木星。

え、「お前はどうかんだ」って? もちろん僕はジョン・レノンの イマジン とマーヴィン・ゲイの ホワッツ・ゴーイン・オン です。ただし条件がある。2曲とも昨年、アメリカのロック・バンド ア・パーフェクト・サークルがカバーしたヴァージョンで聴きたい。

このバンド 昨年『eMOTIVe』というタイトルのカバー(他人の曲を取り上げる)・アルバムをリリースした(ヴァージンVJCP68713)。カバーしたのは前述したレノンやマーヴィン・ゲイの2曲のほか、デベッシュ・モード ピープル・アー・ピープル やジョニ・ミッチェル フィドルとドラム など反戦プロテスト・ソングの名

曲の数々。しかしただのカバーではなく、たとえば イマジン はなんと短調に転調され、まるで葬送歌のような暗澹たるサウンドで、「想像してごらん、天国なんてないと...」と歌われる。あるいは ホワッツ・ゴーイン・オン はサビに至るまで原曲が分からないくらい解体され、廃墟に打ち捨てられたラジオから聴こえてくるように遠く、悲しく響く。つまり彼らは、愛と平和の代名詞のように思われ、逆に都合のいいように解釈され利用されつくしてきた名曲たちにもまったくもって暗黒な解釈を施すことによって、これらの反戦ソングが生まれたときに備えていた痛烈なメッセージを取り戻そうとしているんだ。それは、現在の世界についての彼らの絶望的な認識、そして「平和なんてどこにある?」という疑問の表明である。ジャケットに写る焼け落ちたピース・サインはそれを象徴的に示している(インナー・スリーブはもっと強烈だ)。なんとアメリカ大統領選の日に全米発売され、即座にビルボードのアルバム・チャート2位に輝いたこのアルバムを、一方の政治的意見に与するものと評することもできるだろう。しかし、ここで演奏される イマジン や ホワッツ・ゴーイン・オン があまりにもリアルに、僕たちに容赦ない問いを投げかけてくるものであることも、また事実なのだ。大切なのは、彼らが「正しい」かどうかよりも、彼らが「考える機会を与えてくれた」ことだ。



ア・パーフェクト・サークル『e MOTIVe』

プチ情報 速 達

MCOメンバー、久保陽子が水戸芸術館で録音したバッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ 全6曲のディスク、好評発売中(KUBOYOKO KBYK-1002~3)。『レコード芸術』2月号では特選に輝いています。もうすでに店頭に並んでいますが、MCO99年のCD『モーツァルト:木管協奏曲集』がソニークラシカルの新刊「ベスト・クラシック100」のシリ

ーズに加わり、値下げ再発売されました(SICC319 1,680円)。まだお求めでない方、この機会にぜひ。ミト・デラルコの鈴木秀美も新譜を連続リリース。ヴィヴァルディ:チェロ・ソナタ集(TDKコア TDK-AD012)およびハイドン:トリオ集(同TDK-AD013)。前者も『レコード芸術』2月号で特選です。

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】金曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

「茨城の名手・名歌手たち 第16回」出演者オーディション ●●●●●●●●●●
茨城県に関わりのある演奏家の皆さんを広く紹介する演奏会「茨城の名手・名歌手たち」。第16回を迎える今年10月8日(土)の演奏会に向けて、出演者オーディションを行います。今回の対象は、管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル各部門となります(鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル各部門は、次回の対象となります)。
開催日 / 2005年5月28日(土)
応募受付期間 / 2005年4月12日(火)~4月30日(土)必着
募集部門 / 管楽器・打楽器・声楽(以上、ソロ)・器楽アンサンブル(2~5人まで)
資料請求方法 / 住所・氏名を明記し、80円切手を貼付した返信用封筒と、受験する楽器(編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30-18:00月曜休館)までお申し出ください。
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係(担当:関根・馬場)

チケット・インフォメーション 2月26日(土)発売分 ●●●●●●●●●●

クリスティーナ・ブランコ 関連プレ企画 映画『永遠の語らい』上映
4/9(土)15:00開演 料金(全席自由):¥1,000 4/23(土)クリスティーナ・ブランコのチケットと併せて購入すれば¥200引。

クリスティーナ・ブランコ ポルトガルの心、フアドを歌う
4/23(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000

高山三智子 ピアノ・リサイタル
4/26(火)18:30開演 料金(全席自由):¥3,500

音楽物語 ぞうのパパー 5/3(火・祝)14:00開演
料金(全席自由):大人¥1,500 小人(3歳以上12歳以下)¥1,000

川又明日香 ヴァイオリン・リサイタル
5/22(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生¥1,800

ミハイル・プレトニョフ ピアノ・リサイタル
6/5(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000

これからの演奏会・残席情報 ●●●●●●●●●●

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸ソリスト室内アンサンブル第4回定期演奏会
3/5(土) ...自由席
合唱セミナー 2005 3/6(日) ...自由席
室内オペラ ふたつの電話 3/12(土) ...中央、左右
長須与佳 琵琶・尺八コンサート 3/13(日) ...中央x、左右
ピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタル
3/19(土) ...中央、左右・裏
プロコフィエフの世界 ピアノとヴァイオリンによるコンサート
3/20(日) ...自由席
ATMアンサンブル第20回演奏会 3/26(土) ...中央、左右・裏
2/8(火)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な3月のスケジュール

コンサートホールATM

水戸ソリスト室内アンサンブル第4回定期演奏会
3/5(土)18:30開演 料金(全席自由):¥2,500
合唱セミナー2005 3/6(日)10:00開始
参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300
室内オペラ ふたつの電話
3/12(土)17:00開演 料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000
長須与佳 琵琶・尺八コンサート
3/13(日)16:30開演 料金(全席指定):¥3,500
【梅祭り・室内楽の宴】ピーター・ウィスベルウェイ チェロ・リサイタル
3/19(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500
プロコフィエフの世界
ピアノ(永木早知)とヴァイオリン(山本薫)によるコンサート
3/20(日)16:00開演 料金(全席自由):¥3,000
【梅祭り・室内楽の宴】ATMアンサンブル第20回演奏会
3/26(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート
3/21(月・祝)12:00 / 13:30 3/27(日)12:00 / 13:00
入場無料 演奏は各回20分程度です。
水戸二高コーラス部演奏会 パイプオルガンの響きに乗せて
3/22(火)18:30開演 料金(全席自由):¥1,000

ACM劇場

水戸市民舞踊学校修了公演『幸福な椅子』
3/12(土)19:00開演、3/13(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,500
水戸子供演劇アカデミー卒業公演『あゝ、森で戦争があった。』
3/26(土)19:00開演、3/27(日)14:00開演
料金(全席自由):大人¥800 小人(中学生以下)¥500

現代美術センター

「アーキグラムの実験建築 1961-1974」
1/22(土)~3/27(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日 ただし3/21(月・祝)は開館、翌3月22日(火)は休館。
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な3月の演奏会

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166
茨城県新入演奏会30回記念コンサート 3/6(日)14:00開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122
小曽根 真&伊藤君子 with big band 3/12(土)14:00開演
(問)EVANS TEL / 029(251)6665(13:30~)
スーパーコラボレーション 三都物語~クラシックとジャズの大競演~
3/19(土)16:00開演

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711
洋楽文庫 第2章 前橋汀子 ヴァイオリン・リサイタル 3/11(金)18:30開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457
ステファノ・グロンドーナ ギター・リサイタル 3/13(日)15:00開演
高橋竹童 津軽三味線コンサート 3/27(日)15:00開演

JAホール TEL / 029(852)5881
アンサンブル音楽三昧「音楽三昧の火の鳥」 3/4(金)19:00開演
(問)オフィスアルシュ TEL / 03(3952)8788
筑波大学管弦楽団特別演奏会 弦楽オーケストラの夕べ
3/16(水)19:00開演
(問)平野 TEL / 090-5769-4416
大植英次指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団~つくば特別演奏会~
3/21(月)15:00開演
(問)つくばコンサート実行委員会 TEL / 029(852)6470
有馬由希子 ピアノ・リサイタル 3/27(日)14:00開演

結城市民文化センターアクロス TEL / 0296(33)2001
ニコライ・トカレフ ピアノ・リサイタル 3/6(日)14:00開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2005年3月発行 第105号
編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):小林聡子 関根哲也 中崎美智代 中村 晃
馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)
DTP / office west
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...ポルトガルから春の風。